

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニック科、 自動車整備・トータルマスター科			2026年度 授業計画		
時 期	1年前期	単元	実習	教科名	シャシ1 A
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品	3 級シャシ総合 基礎自動車工学		発行日
総時限	28		2 級シャシ総合		2026年3月21日
総時間	44.8		シャシ構造 I		
単 位	1				
			教科 担当	中瀬 健 田口 桂	

1. 指導教員の実務経験

該当

非該当

1. 自動車整備士としてシャシ系統全般の整備の実務経験がある教員によりシャシの構造・作動について指導する。
2. 自動車整備士として電気装置整備の実務経験がある教員により電装品の構造・作動について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）
1. 計測機器を使用し、クラッチの分解、組み立て、点検調整、が出来作動が理解できる。
2. クラッチのトラブルシューティングができる。
3. マニュアルトランスミッションの分解組み立てを理解し、機能と構造を理解する。
4. マニュアルトランスミッションの動力伝達と変速比の計算が出来る。
5. プロペラシャフトの構造、機能、構成部品の理解。
6. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）
1. クラッチの点検、調整ができ作動が理解できる。
2. クラッチのトラブルシューティング（故障探求）ができる。
3. コイルスプリング式、ダイヤフラム式クラッチの分解、測定、点検、調整、組立。
4. クラッチ総合点検、調整、測定。
5. マニュアル・トランスミッションの機能と構造を覚える。
6. マニュアル・トランスミッションの動力伝達と変速比の計算ができる。
7. シンクロメッシュ機構の理解。
8. マニュアル・トランスミッション分解、組立作業。
9. はんだこての使い方
10. 電子部品基盤取り付け
11. ジャンパー線、コネクターピン作成
12. 正しくテスターを用い測定ができる。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）
・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
・合格点：60点以上
80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満）
・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

6. 学修時間と単位

本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。

1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。

自動車整備科、一級自動車工学科、
自動車整備・カーボディマスター科、
自動車整備・マスターメカニック科、
自動車整備・トータルマスター科

2026年度 授業計画

時 期	1年前期	単元	実習	教科名	シャシ 1 A	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	実習概要・クラッチ座学				ベースプレート	10
2	クラッチ座学				定盤	10
3	ダイヤフラム式クラッチ組み付け 部品名称確認 測定				台付きスコヤ	10
4	クラッチディスク名称確認 フェーシング残量測定				オペレーティングレバー	10
5	コイル式クラッチ組み付け 分解				ディスタンスピース	10
6	コイル式クラッチ各部測定				コイルスプリングテスター	2
7	コイル式クラッチ各部測定				ストレートエッジ	10
8	コイル式クラッチクラッチカバー組み付け				250mmノギス	20
9	コイル式クラッチクラッチカバー組み付け クラッチレリーズレバー調整				油圧プレス	3
10	コイル式クラッチレリーズレバー調整・クラッチ各部測定試験				万力 10 台	10
11	トランスミッション座学				セッティングプレート	10
12	トランスミッション分解				ピンポンチ	10
13	トランスミッション分解				スナッピングプライヤー	10
14	トランスミッション分解				ボールインサート	10
15	シンクロメッシュ メーンシャフトギヤ組み付け練習				ドリフト	3
16	シンクロメッシュ メーンシャフトギヤ組み付け練習				半田ごて、作業板	人数分
17	シンクロメッシュ メーンシャフトギヤ組み付け練習				ワニ口、基板、抵抗	人数分
18	シンクロメッシュ メーンシャフトギヤ組み付け試験				サーキットテスタ	人数分
19	トランスミッション組み付け				電子ブロック	人数分
20	トランスミッション組み付け				ニッパー	30
21	トランスミッション組み付け					
22	半田ごての使用法、注意事項 半田付けの練習					
23	半田ごての使用法、注意事項 半田付けの練習					
24	ジャンパー線、テスターピン、テスター確認用工作物の作成					
25	ジャンパー線、テスターピン、テスター確認用工作物の作成					
26	ジャンパー線、テスターピン、テスター確認用工作物の作成					
27	総復習					
28	総復習					
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						

※ 期末試験は授業時間に含まない

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニック科、 自動車整備・トータルマスター科			2026年度 授業計画		
時 期	1年前期	単 元	実 習	教科名	シャシ1B
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品	3級シャシ総合		発行日
総時限	28		シャシ構造 I		2026年3月21日
総時間	44.8				教科 担当
単 位	1				中瀬 健 田口 桂

1. 指導教員の実務経験 該当 非該当

1. 自動車整備士としてシャシ系統全般の整備の実務経験がある教員によりシャシの構造・作動について指導する。

2. 自動車整備士として電気装置整備の実務経験がある教員により電装品の構造・作動について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

1. 不等速ジョイントと、等速ジョイントの機能と構造を覚える。

2. ディファレンシャルの機能と構造を覚える。

3. LSD（差動制限型ディファレンシャル）の機能と構造を覚える。

4. ファイナルギヤのバックラッシュ測定。ファイナルギヤの歯当り測定。

5. センターディファレンシャルの機能を覚える。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来ようになるのか）

1. ディファレンシャルの機能と構造を覚える。

2. LSD（差動制限型ディファレンシャル）の機能と構造を覚える。

3. センターディファレンシャルの機能を覚える。

4. ディファレンシャルの分解、組み付け、調整。

5. ファイナルギヤのバックラッシュ測定と、歯当り測定。

6. LSDの湿式多板式とヘリカル式の分解組み立て。

7. 等速ジョイントのバーフィールド、トリポットの構造を覚える。

8. 半導体について理解する。

9. リレーについて理解する。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

- ・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
- ・合格点：60点以上
80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満）
- ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
- ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

6. 学修時間と単位

本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。

1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。

自動車整備科、一級自動車工学科、
自動車整備・カーボディマスター科、
自動車整備・マスターメカニック科、
自動車整備・トータルマスター科

2026年度 授業計画

時 期	1年前期	単元	実習	教科名	シャシ 1 B	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	ドライブシャフト 概要説明（何処に付いている、名称）				作業台	10
2	バーフィールドジョイント分解・組み付け練習				パーツキャディ（橙）	10
3	デファレンシャル概要説明 役割 部品名称（学科）				作業台（キャスター付き）	16
4	ファイナルギヤ 作動装置 動力伝達（学科）				パーツキャディ（赤）	16
5	作動装置 動力伝達（学科）				万力	10
6	テーパーローラーベアリング サイドシム調整（学科）				デフ分解用アタッチメント	10
7	サイドシム調整 ピニオンハイト（学科）				ベアリングプーラー	9
8	ドライブピニオンプレロード バックラッシュ点検（学科）				ピンポンチ	10
9	ハイポイドギヤ歯当り点検（学科）				フランジレンチ	10
10	デファレンシャル分解				スピナーハンドル	3
11	デファレンシャル分解				ボックス27	7
12	サイドシム調整 選択				ゴムハンマー	10
13	サイドシム調整 選択				光明丹	2
14	ハイポイドギヤ歯当り点検 バックラッシュ点検				筆	5
15	実習テスト（バックラッシュ測定、サイドシム調整）				トレー	1
16	デファレンシャル組み付け しゅう動トルク				油圧プレス	3
17	デファレンシャル組み付け				ドライブピニオンシャフト用ドリフト	3
18	デファレンシャル組み付け				ベアリングプーラー リプレーサー	3
19	半導体について概要				定盤	10
20	部品点検 ダイオードの点検				標準ゲージ（サイドベアリング）	10
21	部品点検 ダイオードの点検				ウェイトブロック	10
22	ダイオードの点検 テスト				サイドベアリング用ドリフト	3
23	トランジスタの点検					
24	トランジスタの点検					
25	トランジスタの点検					
26	リレーについて概要					
27	リレー計測					
28	総合復習					

※ 期末試験は授業時間に含まない

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニック科、 自動車整備・トータルマスター科			2026年度 授業計画		
時 期	1年後期	単 元	実 習	教科名	シャシ1C
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品	3級シャシ総合		発行日
			2級シャシ総合		
総時限	33		シャシ構造 I		教科 担当
総時間	52.8				
単 位	1				
2026年3月21日					
中瀬 健					
田口 桂					

1. 指導教員の実務経験 該当 非該当

1. 自動車整備士としてシャシ系統全般の整備の実務経験がある教員によりシャシの構造・作動について指導する。

2. 自動車整備士として電気装置整備の実務経験がある教員により電装品の構造・作動について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

1. ドラムブレーキの分解、組み付け調整ができる。シューの残量 ホイールシリンダー分解、組み付け含む

2. ディスクブレーキの分解、組み付け調整ができる。パット残量 キャリパーオーバーホール含む。

3. ディスクローター、ハブベアリングの測定又は、異常判定が出来る。

4. ブレーキフルードの交換ができる。

5. 制動倍力装置の簡易点検ができる。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来ようになるのか）

1. ブレーキの原理、構成部品、基本構造を理解する。

2. ドラムブレーキ構造、機能を覚える。

3. ディスクブレーキの構造、機能を覚える。

4. 一体型真空制動倍力装置の構造、機能を理解する。

5. ドラムブレーキの分解、組立、調整。

6. ディスクブレーキの分解、組立、調整。

7. 制動倍力装置の簡易点検。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

- ・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
- ・合格点：60点以上
80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満）
- ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
- ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

6. 学修時間と単位

本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。

1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。

自動車整備科、一級自動車工学科、
自動車整備・カーボディマスター科、
自動車整備・マスターメカニック科、
自動車整備・トータルマスター科

2026年度 授業計画

時 期	1年後期	単元	実習	教科名	シャシ1C	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	第7章ブレーキ装置 座学				作業台	10
2	第7章ブレーキ装置 座学				パーツキャディ（橙）	10
3	第7章ブレーキ装置 座学				キューブ Z12	5
4	第7章ブレーキ装置 座学				デイズルークスB A 0	5
5	第7章ブレーキ装置 座学				ブレーキキャリパー K 1 1	10
6	ブレーキ種類、概要 油圧式ブレーキ ドラム ディスクブレーキフルード				ブレーキキャリパー C 1 1	10
7	ブレーキフルード点検 液漏れ 液面警告灯 ブレーキペダルの点検ペダル調整				ホイールシリンダ K 1 1	10
8	エア混入 フェード現象 ベーパーロック現象 引きずり				マスターシリンダ	10
9	パーキングブレーキ構造 パーキングブレーキ点検 調整				スケール	10
10	キャリパー点検 ブレーキパットの磨耗確認ホイールシリンダー点検				ガレージジャッキ	10
11	ブレーキペダルの点検 パーキング引きしろ点検				リジットラック	40
12	ブレーキフルードの交換『抜き取り』				輪止め	10
13	マスターシリンダーの液面警告灯点検 マスターシリンダーOH				バネ秤	2
14	キャリパーOH,ホイールシリンダーOH, マスターシリンダーOH				踏力計	10
15	ドラムブレーキ分解 組み付け インドラム分解組み付け キャリパーOH,ホイールシリンダーOH, マスターシリンダーOH				フルードキャッチタンク	10
16	ドラムブレーキ分解 組み付け インドラム分解組み付け キャリパーOH,ホイールシリンダーOH, マスターシリンダーOH				マスターバック	10
17	ディスクローター点検 ブレーキパット測定				フレアナットレンチ	10
18	ディスクローター点検 ブレーキパット測定				スナップリングプライヤ	10
19	ブレーキ部品分解・組み立て測定練習				エアガン	10
20	ブレーキ部品分解・組み立て測定練習				エアホースリール	10
21	ブレーキ部品分解・組み立て測定練習				シールピック	10
22	ブレーキ部品分解・組み立て測定練習				ブレーキフルード	10ℓ
23	技能要件（パット、キャリパーローター測定）				ブレーキグリス	5本
24	技能要件（パット、キャリパーローター測定）				ラバーグリス	5本
25	技能要件（パット、キャリパーローター測定）				ダイヤルゲージ	10
26	技能要件（パット、キャリパーローター測定）				ハンドルカバー	10
27	ブレーキフルードの交換『エア抜き』				シートカバー	10
28	ブレーキフルードの交換『エア抜き』				ダイヤルゲージ	10
29	Pバルブ位置 作動 ドラムオートアジャスター				ノギス	20
30	Pバルブ位置 作動 ドラムオートアジャスター					
31	一体型制動倍力装置点検方法					
32	総復習					
33	総復習					
34						
35						

※ 期末試験は授業時間に含まない

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニック科、 自動車整備・トータルマスター科			2026年度 授業計画		
時 期	1年後期	単 元	実 習	教科名	シャシ1D
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品	3級総合	発行日	2026年3月21日
総時限	33		2級総合		教科 担当
総時間	52.8		自動車整備工具・機器	田口 桂	
単 位	1				
1. 指導教員の実務経験 該当 非該当 自動車整備士としてシャシ系統全般の整備の実務経験がある教員によりシャシの構造・作動について指導する。					
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入） 1. 2輪特有の整備を身に付ける。 2. 2輪に必要なメンテナンスを身に付ける。 3. 4輪自動車エンジン脱着前に 2輪で必要な部分を学習する。 4. 工作作業で、工作機器の正しい使用法を身に着ける。					
3. 授業の到達目標（何を理解し何ができるようになるのか） 1 2輪の整備ができる。 2 2輪に必要なメンテナンスを学ぶ 3 チェーンの調整、交換方法を学ぶ。 4 カウル脱着時にクリップの外し方や部品の扱い方を学ぶ 5 バイクスタンド使用方法を学ぶ。 6 車体を傷つけない整備を出来るようにする。 7 構造 方法を理解させる。					
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目） ・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。 ○×、選択肢、記述により100点満点で評価する ・合格点：60点以上 80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満） ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上） 再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。 ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。					
5. 準備学習 					
6. 学修時間と単位 本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。 1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。					

自動車整備科、一級自動車工学科、
自動車整備・カーボディマスター科、
自動車整備・マスターメカニック科、
自動車整備・トータルマスター科

2026年度 授業計画

時 期	1年後期	単元	実習	教科名	シャシ1D	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	バイクについて概要（座学）				CBF125R	6
2	バイクについて概要（座学）				グロム	6
3	バイクについて概要（座学）				バイクスタンド前 小 グロム用	6
4	バイクについて概要（座学）				バイクスタンド後 小 グロム用	6
5	バイクについて概要（座学）				バイクスタンド前 大 CBF用	6
6	バイクについて概要（座学）				バイクスタンド後 大 CBF用	6
7	バイクについて概要（座学）				棒ヤスリ	12
8	CBF： エンジン脱着 グロム： チェーンの調整				紙やすり	30
9	エンジン脱着		チェーンの調整		コンパウンド	1
10	エンジン脱着		チェーンの調整			
11	エンジン脱着		チェーンの調整			
12	エンジン脱着		チェーンの調整			
13	エンジン脱着		チェーンの調整			
14	エンジン脱着		チェーンの調整			
15	エンジン脱着		チェーンの調整			
16	エンジン脱着		チェーンの調整			
17	実習テスト（グロムチェーン調整、タップ）					
18	工作作業 プレート作成		バイク・工作作業者入			
19	工作作業 プレート作成					
20	工作作業 プレート作成					
21	工作作業 プレート作成					
22	工作作業 プレート作成					
23	工作作業 プレート作成					
24	工作作業 プレート作成					
25	工作作業 プレート作成					
26	工作作業 プレート作成					
27	ボール盤作業					
28	タップたて					
29	総合復習					
30	実習テスト（グロムチェーン調整、タップ）					
31	総合復習					
32	総合復習					
33	総合復習					
34						
35						

※ 期末試験は授業時間に含まない